



「ひらほく新聞」で検索!

★感謝で継続11年目に突入★

http://www.hirahoku.com/

☆ぜひ、バックナンバーをどうぞ!

発行所 読売センター平塚北部(ひらほく) 山本 直 〒254-0013 神奈川県平塚市田村9-4-32 電話 0463-54-2807



1,300円+税

2017年4月号でご紹介した書籍、「ママ、死にたいなら死んでもいいよ」の著者、岸田ひろ美さんの娘さん、岸田奈美さん...

弟が万引きを疑われ、そして母は赤べこになった

わたしが高校生だったころ、学校から帰ったら、母が大騒ぎしていた。なんだなんだ、一体どうした。

「良太が万引きしたかも」

良太とは、私の4歳下の弟だ。生まれつき、ダウン症という染色体の異常で、知的障害がある。人間の21番目の染色体が、正常では2本のところ、3本存在するとダウン症になるらしい。ヒトの細胞の染色体が一本多いと、ダウン症になるらしい。1本得してははずなのに、人体とはまったく不思議である。

「良太が万引き?あるわけないやろ」

ヒヤリハットを、そういう帽子だと思っていた母のことなので。ニコラスケイジを、そういう刑事だと思っていた母のことなので。岸田家にお

けるこの手の大騒動は、本気にしてなかった。どうせ勘違いだろう。

でも、母がいうには。

中学校から帰ってきた良太が、ペットボトルのコーラをもっていたぞうだ。

「お金はビタ一文、持たせていなかったのに」

「文なし?」

息子を文なしっていうのも、それはそれで、どうなんなんだ。私は昔、いじめっ子にひどくやられたとき、拾った空のペットボトルで仕返しをしたことがある。泥水に雑草を絞った汁を混ぜ込み「ジェネリック綾鷹」と称して、いじめっ子に飲ませたのだ。

果たして良太のコーラは本物なのかと確認した。でも、本物だった。

「それで、良太は?」

母のお縄についた、我が弟に目を向けると。口をへの字にした。めちやくちゃ、へ

の字にした。

「良太お前、これ冤罪やんけ!」

もう24年の付き合いになるけど、そんな表情できたのか。ビビった。

これは、こちらの対応もそれなりに考えなければならぬ。

「ねえ良太。いい子だから、よく聞いて...」

良太の両肩をもち、正面から見つめ、ハリウッドのいい女をうろ覚えで演じてみる。良太の表情はびくともしない。姉のユーモアが、

かつば寿司のすし特急のようになだすべりにしていく。すると、良太が気まずそうに紙をとり出した。コンビニのレシートだった。レシート、それすなわち、購入の証である。

「良太お前、これ大丈夫やんけ!」

ああ、よかった。万引きじゃなかった。岸田家に一筋の光がさした。レシートの裏面をぴろりとめくると

「お代は、今度来られるときで大丈夫です」と書かれてた。

だ、大丈夫ちゃうやんけ!.....!

あせりにあせって、コンビニへと馳せ参じる、岸田家。すし特急のように気持ち先走りすぎて、「お詫び菓子折り 今すぐ」でGoogle検索したら「コン

コンビニで買える菓子折り10選」が出てきた。

コンビニへお詫びに行くのに、コンビニで菓子折りを買えと。童話「マッチポンプ売りの少女」がはじまつてしまふ。これはあかん。

コンビニへ到着するなり、母が「すみません、すみません」と頭を下げた。それはもう、めちやくちゃに下げまくった。上を下への大騒ぎである。

のちの、神戸市北区の赤べこ事件となる。

そしたら、店員さんってば、笑ってるんです。

「息子さんのほうが渴いて、困ったから、このコンビニを頼ってくれたんですよね」

「えっ?」

「頼ってくれたのがうれしかったです!」

...えっ? 天使? ちなみに、店員さんだと思っていた天使は、コンビニのオーナーさんだった。このときは一生忘れられないと思った。帰ってから良太は、赤べこからバチボコに叱られてた。めでたし、めでたし。

|| || 《中略》 || ||

そんなこんなで、今日も良太は、ひとりで散歩し、バスに乗り、コンビニで買

いものしている。でも、本当はひとりじゃない。

良太には、できないことがたくさんある。補ってく

れているのは、地域の人が

ちだ。バスの運転手さん、コンビニの店員さん、犬の散歩をしているおじいさん。元気にあいたつをする良太をあたたく見守って、つまずいたら、手を差しのべてくれている。

その度に、赤べこの家族は、お礼をいいに行く。

相手は口をそろえて「こちらこそうれしかった」といつてくれる。

「障害のある人とどう接したらよいか、良太くんから教えてもらった」ともいわれた。

良太の小学校の同級生のお母さんから「うちの子、良太くんと一緒のクラスになつてから、自分の弟にも優しくなつたんです」といわれたとき、赤べこの親子は、わんわん泣いた。

神戸市北区の新しい工芸品となるくらい、わんわん泣いた。

最近、気づいたことがある。助けられてばかりの良太だけど、良太だって、人を助けている。母べこは車いすに乗っているの、坂道の多い地元では、気軽にコンビニへ行けない。その

くせ、脈略なくいきなりどん兵衛が食べたくなるそ

うだ。だから、おつかいに

行ってくれる良太は母べこのヒーローだ。

車いすの押し方だって、

姉べこより良太の方が上手い。街中で車いすの人が困つていたら、良太はきつと、

だれよりも先にかけつけるはずだ。

さあ行け、良太。行ったことのない場所に、

どんどん行け。助けられた分だけ、助け返せ。

良太が歩いたその先に、障害のある人が生きやすい社会が、きつとある。

知らんけど。(おわり)

まずお伝えしたのは、奈美さんが大学時代に創業メンバーとして関わり、直近まで広報部長を務めていた「バリアをバリューにする」株式会社ミライロの活動。

後に社員となった母のひろ美さん。車いす講師として年間180回以上講演して伝えているのは、高齢者・障害者など、多様な方々

を街で見かける現代に、違つた一人ひとりに向き合

い、適切な理解のもと行動する「ユニバーサルマナ

ー」。そして今まで「バリア」として捉えていたこと

も、考え方や周囲の向き合い方次第で「強み」や「価値」に置き換えることができるということ。

コロナ禍での新常識時代こそ、その学びと実践が最

重要課題となります。

人間万事 塞翁が馬

◎表面紹介エッセーより、ぜひ知ってもらいたい部分を3つ抜萃、ご紹介します。

■わたしは、父が亡くなったとき、母が集中治療室にいたとき、それはそれは絶望した。

「神様は越えられない試練を与えられないよ」

「お姉ちゃんだから、気をしっかりもって」

「応援するよ」とたくさん応援の言葉をもらった。

でも、どんなに優しい言葉も、素直に受け取れなかった。

「そんなこといったって、あなたの家族は死んでないじゃん」

「あなたとわたしは違う」「わたしのつらさなんか、どうせ誰にもわからない」

本当につらいとき、私は、他人の言葉に耳を傾ける余裕がなかった。

でも唯一、うれしかったのは、残った家族が、泣いてくれたことだった。一緒に絶望してくれ、立ち直らなくていいから、好きなだけ泣く時間を私にくれた人たちの存在が、本当にありがたかった。

私の場合、絶望はゆっくりに長い時間をかけて向き合っていく、忘れることでしか、なくならなかった。バケツに

なみなみたままった水が蒸発するのを待つように、気が遠くなる時間がかかった。絶望は、他人の応援の言葉で、めったになくなるものではない。

だから「何とかしてあげたいけど、何をしたらいいかわからない」ならば、焦りはぐっとこらえてほしい。友人の話を聞いて、事実を受け入れる。もし、その友人と同じように悲しく思ったのなら、素直にその気持ちを伝えてほしい。

ただ、それだけでいいのだと思う。それができないなら、無理に言葉をかけずとも、じっと待つだけでもいい。「つらくなったらいつでも話を聞けよ」「ひとりじゃないよ」ということが、言葉でも、態度でも、

伝われば、ただそれだけで。でも、なんであれ、何か力になりたいと思うあなたの気持ちは、その愛は、ものすごく尊くて、あなたのような人に、わたしも毎日生かされている。

いつもありがとう。これが正解か私もわからないけれど、とにかく、ありがとう。

母、ひろ実さんが極度の緊張のなか初めての研修講師をやり遂げた時のこと。

「岸田先生のおかげで、車いすに乗っているお客さまの心配がよくわかりま

した。これで自信をもってお客さまをお迎えすることができそうです。本当にありがとうございます」

ひとりのスタッフさんがかけ寄って、ぺこりと頭を下げた。ボロボロになっていた母はスタッフさんよりも深く、深く、ぺこぺこ頭を下げて「わたしの方こそ、ありがとうございます」といっていた。

帰りの新幹線で、母はほろりと涙を流した。私は石のようにかたいアイスクリームをつつきながら、ギョツとした。

「歩けへんくなってるから、はじめてだれかからありがとうっていわれたかもしれへん」

うん。「こんな私でもまだ、だれかの役に立てたんや」

うん。「奈美ちゃん、ほんまにありがとう。わたし生きてよかった」

アイスをつついたあと、疲れて寝たふりをしながら、私もほろりと泣いた。ミライロに入って、社会でなにかを変えられることなんかかわずかだ。街には車いすで行けない場所がまだまだある。でも「死にたい」と一度はいった母の目に、少しだけ光が灯った。もがきながら見つけたあの光は、気のせいじゃなかった。

お世話になったミライロを飛び出して作家になった私は、また新しい光を探して、いまも笑いながらもがき続けている。

■私の場合、人生で転んでしまったあとの立ち上がり方を教えてくれたのは、父かもしれない。父のなんでもユーモアに変えてしまう背中を見ていたから、父が死んでも、母が病気になるでも、絶望の底ですつとすくまるのではなく、前へ前へと歩き続けられたのかもしれない。

「起るるかどうかわからないことにおびえるより、起こったあとにどうするかを、家族と考えたいよね。僕がこれからずっと、家族のことをサポートし続けるわけじゃないから」

不思議だ。人はだれしも、大切な人のそばにずっといたいられないかもしれないという意味を含む言葉なのに、深い愛が透けて見えた。

◎斉藤一人さんの教えより「人は自分で親を選んで生まれてくる。そして、この親で幸せになれるという人を選ばないという。生まれながらの目的は自らの魂を磨くこと。どんな人でも必ず自分で決めてきた『試練』を入れてくるという。奈美さんはその意味を理解でき

て今があるのだと思う。「成功したから幸せではなく、幸せだから成功した」といわれる。まずは自分を信じ、愛する。そして自ら選んだ大切な人(家族)を愛する。『家族だから愛したんじゃなくて、愛したのが家族だった』というタイトルメッセージにすべてが込められている。(おわり)

ジャマナカ

年間120冊、これまで千冊以上の本を読破、芸能界No.1の読書家といわれる菅田愛菜さん。そのなかで彼女が一番に魂震えた一冊とは何か。

小学校3年生、9歳の時に母さんに買ってもらったある人の自伝書、それは、『山中伸弥先生に、人生とIPS細胞について聞いてみた』だという。

波瀾万丈の人生のなか、山中先生は他の人の何倍も努力されていると思うが、その努力を楽しんでいる。

■書籍で最も好きな部分
多くの好きな言葉の一つに「人間万事塞翁が馬」があります。(中略)

多くの人生も、まさに「人間万事塞翁が馬」と思える出来事連続です。それがスタートしたのが、研修医時代でした。(中略)

多くの指導医の先生は、それまでの人生で出会ったどんな人ともくらべられないほど恐ろしかった。(中略)

ぼくは山中という本名を呼んでもらえませんでした。研修期間の二年間、ずっと『ジャマナカ』です。

しかし、ここで壁にぶつかったことが、研究者という新しい道につながったのです。(ここまで)

こちらの山中教授の自伝書では、一般的な人間万事…のフリガナが、「じんかん」となっている。人間とは人ではなく、「世間」を表しているという。そんな教養を含め、愛菜さんが学んだ人生の教訓とは…。

「これから先、辛いこともあると思うけど、そんな時は『人間万事塞翁が馬』という言葉を思い出して、その時その時一喜一憂するんじゃないって、これはチャンスかもしれないって思えるようになればいいなって思いました」(おわり)

◎岸田奈美さんが自伝エッセイで表現した自らの生き方につながる部分があり、ご紹介しました。何があっても目の前のごとに、夢中に向き合えることが、次の光を導きます。「すべては今のためにあつたこと」と思えるように。

編集後記

前出、岸田ひろ実さんの新宿での出版記念講演会に参加した際、娘の奈美さんも傍らにおられたが、あれから3年、このような作家デビューという展開とは驚きだ。苦手なこともたくさんあるなか、大好きなことを極められたのは、「好きな自分でいられる人との関係性だけを、大切にしてく」という答えにたどり着き、心に決めたから。

この度、世界的な経済誌『フォーブス』が発祥のワード「30 UNDER 30 JAPAN」で、次代を担う30歳未満のイノベーターとして受賞。さらに展開が早くなるであろう奈美さんの人生、この先がとても楽しみだ。

幸せ・ポジティブな方が脳の生産性が上がるといふ。では幸福度を上げるには…。ハーバード式幸福優位7つの法則によると、①瞑想、②運動、③楽しみを持つ、④人に親切にする、⑤環境を整える、⑥経験にお金を使う、⑦自分の強みを発揮する、だという。

習慣を制するものは人生を制する。継続できそうなことは何か。コロナ禍のなか、瞑想も含めたマインドフルネスを本格的に学び中。講座で皆さんにお伝え出来るようになりたい。